■冷媒回収（ポンプダウン）の方法

※エアコンを移設するとき、または、サービス時に行います。
※冷媒回収を行う前に、5分間程度の予備運転を行ってください。

① 連成計で冷媒ガス圧力を見ながら回収する方法

❶ 太径側サービスバルブに連成計のチャージホースを取り付けます。ハンドルLoHi共も全閉です。

❷ チャージホースの中の空気を、右図の位置をゆるめてエアパージします。

❸ 細径側サービスバルブのスピンドルを六角棒レンチで右いっぱいにまわして、漏れないよう確実に閉めます。

❹ 太径側サービスバルブのスピンドルを、すぐ閉じることができるようあらかじめ、閉じた状態から90°開いた半開きにします。

❺ 冷房運転を行ないます。40～60秒間運転しますと、連成計の圧力が0.049MPa（ゲージ圧）になりますので、太径側サービスバルブのスピンドルを右いっぱいにまわして0MPaで確実に閉じます。チャージホースを外しキャップを取り付けます。

強制冷房運転

室内機または室外機のスイッチを1～5秒以上（※）押すと、強制冷房運転になりますので、冷媒回収や故障診断するときに使用してください。（サービスバルブのスピンドルを閉めた状態で5分以上は、絶対に運転しないでください。）
※機種により異なります。

⚠注意	● 暖房運転では、冷媒回収ができませんので、絶対に行わないでください。 ● 0.049MPa以下まで運転すると、室内機側が負圧になり、配管を外すときに空気が入ってしまうため、圧力のかかっている状態で停止してください。

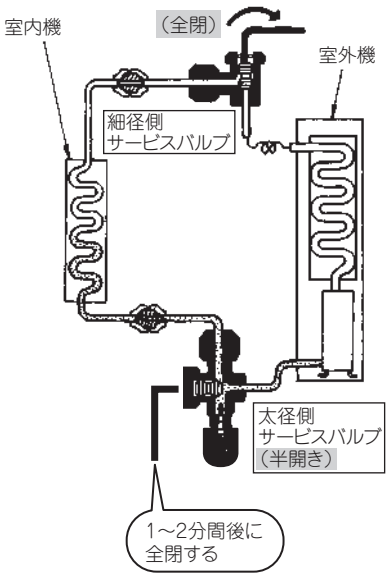
② 冷媒ガス回収を時間で判断して行う方法

❶ 冷房運転で5分程度の予備運転を行い、配管内に滞留している冷凍機油を冷媒で動かします。
冷房運転しづらい時は、「強制冷房運転」で行います。

❷ 冷房運転中に細径サービスバルブのスピンドルを、時計回りに回して閉めます。

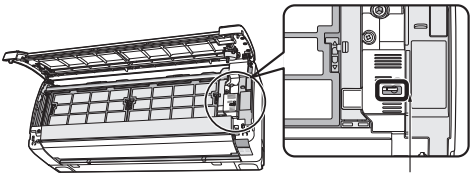
❸ そのまま冷房（強制冷房運転）を1～2分間行った後、太径サービスバルブのスピンドルを時計回りに回して閉じます。

❹ 冷房（強制冷房運転）を停止します。



強制冷房運転

●室内機の応急運転スイッチを５秒以上押すと、強制冷房運転になります。※
故障診断や、室外機に冷媒を回収するときに使用してください。
●強制冷房運転中はタイマーランプが点滅します。
●強制冷房運転を停止するときは応急運転スイッチを再び押すか、リモコンで運転を停止してください。



応急運転（強制冷房）スイッチ ※
5秒以上押し続けると強制冷房運転を開始します。
止める時は、もう一度押すか、リモコンで運転を停止してください。

※機種により異なります。

⚠注意

●**サービスバルブのスピンドルを閉めた状態で5分以上運転しない**
故障の原因になります。

⚠警告

●**冷媒回収（ポンプダウン）作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機の運転を停止する**
圧縮機を運転したまま、冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・けがなどの原因になります。